

スイカ (ウリ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
植えつけ				収穫							

品種

縞王マックスRE、天竜2号、縞紅

【小型系】こだま、ニューこだま、紅こだま、舞子

栽培ポイント

高温と乾燥を好みますから、日当たりのよいところで作ることがたいせつです。雨の多い年は、着果が悪いうえに、甘みの少ない果実になります。

酸性土にもわりあい強く、土質も選びませんが、排水が悪い場所では、梅雨期に必ず湿害や病害を受け、全滅することもありますので、高畝にします。

畑にはあらかじめ、1㎡あたり1握りの苦土石灰をまいて、よく耕しておいてから畝作りをします。

じかまきもできますが、多少価格が高くてつるの割れ病に強い接ぎ木苗を買い求めるのが無難です。

●管理● 植えつけは、晩霜のおそれが終わってから行います。スイカは、十分に根づかないうちに低温にあうと、その後の生育が極端に遅れますから、暖かくなってから、晴天日を見はからって植えます。

植えつけ前にポリマルチをして地温を高め、ビニールトンネルをかけて保温すると安全です。

苗が根づくまでは、トンネルの換気はしませんが、根づいてからは徐々に風下側のすそをあけて換気をはかります。

5月中旬以降は、夜間もビニールを半開きにします。5月下旬になってもビニールははずさず、トンネルの上部にまとめておき、雨や風の日にはトンネルを閉めます。

トンネルのかわりに、カボチャと同じようにホットキャップをかぶせてもかまいません。この場合は、生育につれて徐々にビニールを破り、苗を低温にならしてからキャップをとり除きます。

スイカの整枝法にはいろいろありますが、子づるに果実をならせるのが一般的です。

親づるは5～6節で摘芯し、子づるを3～4本仕立てにして、余分な子づるはつみとり、つるの伸長が平均するようにします。

子づるから出る孫づるは欠きとりながら、つるがからまないように誘引します。この芽欠きは結実を促す効果も兼ねているので、結実した先の3～4節までとし、その後は放任します。

追肥は、果実が鶏卵大になるのを待って施します。

●結実● 雌花は、最初の子づるの7～8節につき、その後は6～8節ごとにつきます。着果節位が低いと変形果になりやすいので、よい果実を得るためには、15節以降に結実させるようにします。

なお、草勢が弱い場合は、20～21節についた雌花に結実させないとよいものとれません。強すぎる場合は、1番花を着果させて草勢を落ちつかせてから、2番花を着果させます。

●人工交配● 確実に着果させるために、人工交配をします。方法は、花卉をとり除いた雄花を、早朝開花した雌花の柱頭に軽くたたくようにつけてやります。晴天日には朝9時ごろまで、曇天や雨の日は9時を過ぎないと、花粉が出ません。

結実後は果実を肥大させるために、鶏卵大のころ、1株あたり1握りの化成肥料を施します。

果実の直径が15～20cmになったころ、果実の変形を防ぐために、玉直しをします。

収穫までの日数は交配時期によって異なりますが、交配から40日前後で成熟し、収穫できます。

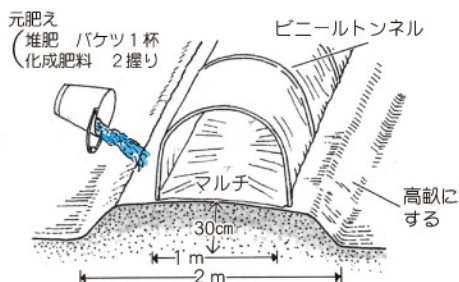
収穫後は、直射日光の当たらないところにおいて、早めに食べます。

栄養

カルシウムの多い、アルカリ食品です。1回あたりの摂取量が多いので、ビタミンCやカロチンは、ほかの果物より多く摂取できます。

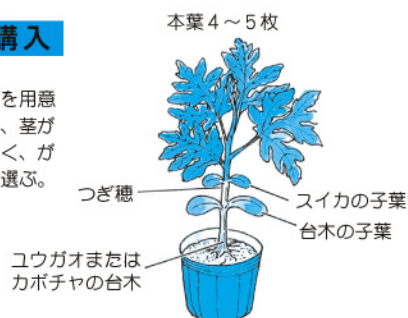
1 畝作り

苗を植えつける1週間くらい前に、元肥えを全面に施して土によくすり込み、2m幅の畝を作る。ポリマルチをすると地温が高まり、生育がよい。またビニールトンネルをすると保温できる。



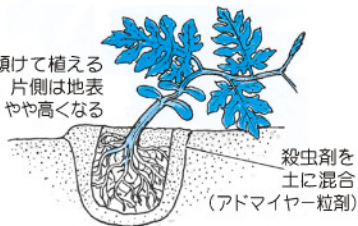
2 苗の購入

苗は接ぎ木苗を用意する。葉が厚く、茎が太く、節間が短く、がっちりした苗を選ぶ。



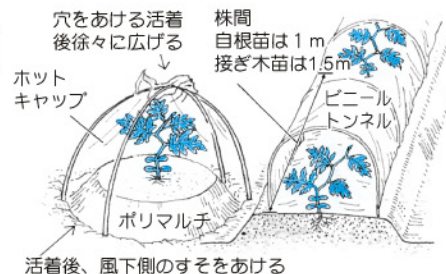
3 苗の植えつけ

晴天無風の日に植えつけする。植えつけ前日に植え穴を作り、水をやっておく。植えつけ前に苗にも水をやりし、風下に向けて苗を斜めにして植える。



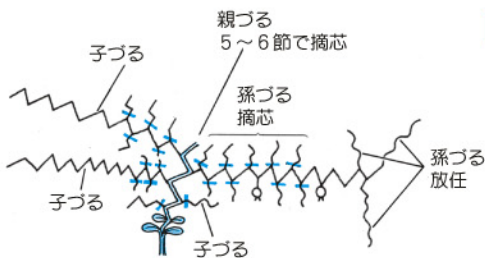
4 保温

植えつけ後、ビニールトンネルかホットキャップをかける。ホットキャップは、植えつけ後5~7日するとビニールの内側についていた水滴がなくなり、高温障害を起こしやすいので、穴をあける。穴は徐々に大きくし、晩霜のおそれなくなったらキャップをはずす。



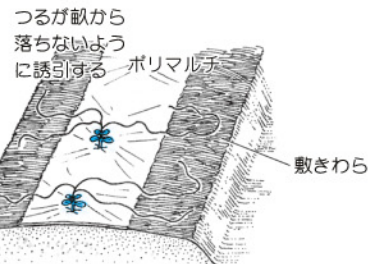
5 整枝

親づるは、5~6節で摘芯する。その後、伸びた子づるが50cmになったら、生育のよい子づるを3本残し、ほかは摘芯する。また、株元や込み合った部分の孫づるはつみとる。



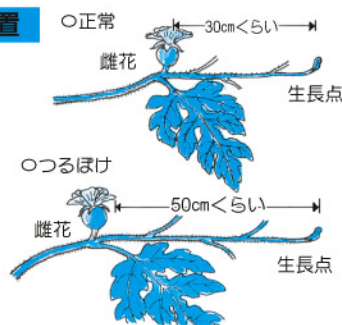
6 誘引・敷きわら

つるが伸びてきたら、つるの安定と土のはね返りを防ぐために、わらを敷く。つるの両側に交互に配置し、込み合いを防ぐ。



7 つるの伸びと着花位置

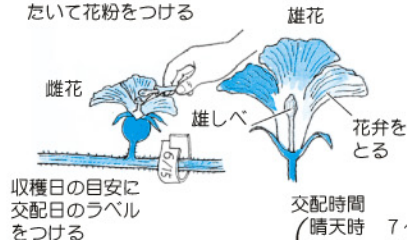
雄花の開花数が多く、つるの生長点から30cmぐらいのところに雌花がつくのが正常。30cm以下では栄養不足で、受精しても落花したり、肥大がよくないので追肥をする。50cm以上になるのは、つるぼけで、着果しなかったり、着果しても落果したりする。



雌花が咲いたら、雄花の花粉をつけてやる。交配には雌花とは別の株の雄花を使う。天候をみて、雄花、雌花の開花前に雨よけをすとい。受精すると、4~5日後には子房が急激に肥大する。

8 人工交配

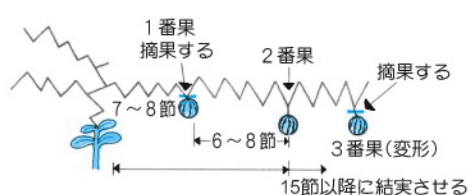
雌花の柱頭を軽くたたいて花粉をつける



交配時間
(晴天時 7~9時
雨天日 9時以降)

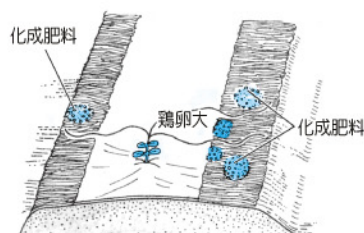
9 結果位置

1番果は元なりと呼ばれ、変形果になりやすいので、草勢が強い場合は着果させて草勢を落ち着かせてから摘果する。弱い場合は雌花をつみとる。また、3番果は変形果なので、摘果し、各つるに1果をつけて肥大させる。



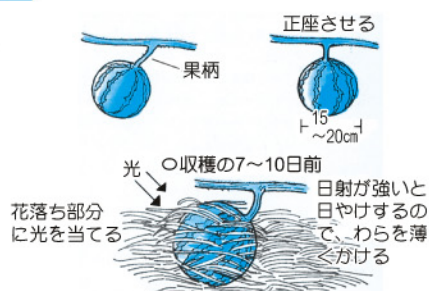
10 追肥

追肥は、着果が確実に果実が鶏卵大になったころ、つる先のあたりを中心に、1株あたり1握りの化成肥料を施し、軽く中耕する。



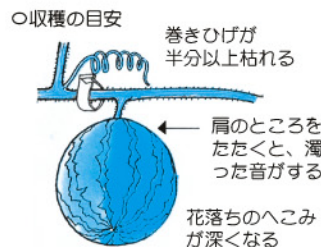
11 玉直し

果形をととのえ、果皮の色むらをなくすために、果実の地面についている位置を直してやる。これは、無理に行くと、果実から折れたりしやすいので、果実とつるを持ち上げて、ていねいに行う。



12 収穫

5月交配で45日後、6月交配で35~40日後ぐらいを成熟の目安とするが、初心者は、1個試しどりをし、熟度を調べるのが確実。



主な病害虫

◆病気 つる割れ病、炭疽病、疫病
◆害虫 アブラムシ、ハダニ